

# 春秋会

ニュースレター

2023.4



## 春秋会会員のみなさま

2023年度もよろしくお願いいたします。松尾新広報委員長の下、本年度も会員の皆様にとって面白く、ためになる情報発信に努力してまいります。会報2023年春号も是非ご覧ください。

<http://osaka-shunjyu-kai.com/magazine/> (pass: 「sjk」)

広報委員会一同

## 6/3第5回ゆるゆるゴルフコンペのお知らせ

6月3日(土)、広報委員会主催、第5回「ゆるゆるゴルフ」を開催いたします！ほぼ初心者だけど、気兼ねなくラウンドを楽しみたいという方、大歓迎です。参加者の中には、200打近くを叩きつつ、クラブを振っては走る(通称、「ゴルフ&ラン」という、新たな競技を生み出した若手もいます。

参加希望の方は、柳勝久委員(katsuhisa.yanagi@dojima.gr.jp)までご連絡ください。是非、お気軽にご参加ください！

## 今月の予定

・4/18(火)12:00

第1回幹事会

・4/24(月)18:30

役員退任慰労会

## 2023年度幹事長ご挨拶

### 幹事長 岩本 朗 (47期)

1年間よろしくお願いいたします。

2023年度の幹事長をさせていただきます。会派は弁護士会と異なり任意の団体です。会員ひとりひとりが所属する意味、参加する意味を感じられなければ成り立ちません。

所属していて良かった、参加して良かったと感じてもらえるよう、行事や企画を考えていきます。コロナ禍もようやく去りつつある2023年、この間定着したウェブ活用も続けていきますが、是非リアルでもたくさんお会いしましょう。



## 2023年度 広報委員

- ・松尾 洋輔 (59期、委員長)
- ・溝上 絢子 (57期、担当副幹事長)
- ・西原 和彦 (55期)
- ・堀川 智子 (57期)
- ・浦 寛幸 (59期)
- ・広瀬 元太郎 (60期)
- ・柳 勝久 (61期)
- ・山田 寛子 (65期)
- ・金星 姫 (66期)
- ・木場 晶子 (67期)
- ・田村 瞳 (67期)
- ・板崎 遼 (67期)
- ・吉留 慧 (68期)
- ・高 一成 (69期)
- ・根本 俊太郎 (70期)
- ・足立 敦史 (71期)
- ・村本 健司 (71期)
- ・河野 哲平 (71期)
- ・才木 晴幹 (72期)
- ・中岡 さつき (72期)
- ・中西 教子 (72期)
- ・久井 大輝 (73期)
- ・山本 こずえ (73期)
- ・佐々木 崇人 (74期)
- ・神澤 鈴子 (74期)
- ・秦 尚輝 (74期)

## 古典芸能よもやま話～能のお稽古について

中村 和洋 (49期)

### 1 能の稽古とは

私は、約10年間、能楽師の先生から「謡(うたい)」と「仕舞」を習っています。

「謡」とは、能の台本を独特の節に乗せて謡うものです。お経に似たような感じですが、客観的な音階というものはありません。音の高低や一音一音の長さで、変化をつけます。

背筋を伸ばしてお腹から声を出すのは、とても気持ちいいです。しかし、なかなかこれが難しいのです。なんとなく「能」っぽくなったかなーとなるまでにも、2～3年くらいかかります。

曲として有名なものでは、昔の結婚式でよく謡われた「高砂」があります。

「高砂や この浦船に帆を上げて 月もろともに出で汐の 波の淡路の島影や 遠く鳴尾の沖過ぎて はや住之江に着きにけり」という詞章。

これは能の「高砂」の一節。

ワキである旅行中の神主が、高砂の浜辺で不思議な老夫婦に会い、その後、船で住吉神社に向かう場面で謡われます。

大きな意味はなく、単に高砂から住之江までの移動の景色を述べたもの。ただ「高砂」そのものが夫婦和合のお目出度い能なので、結婚式の定番になったようです。

今はあまりしませんが、「結納」のときに、男性側から女性側に高砂の人形(老夫婦がそれぞれ帚と熊手を持っているもの)を送ります。私は27年前に結婚しましたが、そのときには結納がありましたので、自宅には今も高砂人形を飾っています。

### 2 「謡」の稽古方法

「謡」の稽古の具体的な方法は、非常にプリミティブ。

まず先生と向かい合って座ります。そして、「謡本」を見ながら、先生が区切りのいいところまで謡います。それに続けて、生徒が同じように繰り返します。先生からは、「もうちょっと高く」などと講評してもらいます。

そういうことをだいたい30分くらい続けて、1回の稽古はおしまい。たいていは稽古の録音を許してもらえるので、録音を聴いて家で復習します。

2回目の稽古では前回のおさらいをしてから、同じ方法で新たな箇所に進んでいきます。「謡本」の長さにもよりますが、4～5回から10回くらいの稽古で1冊完了。それから次の本に移ります。

観世流の場合、初心者用の「謡本」というのがあります。「観世流初心読本」の上巻では、「鶴亀」、「橋弁慶」、「吉野天人」、「大仏供養」、

「土蜘蛛」が掲載されています。

少し専門的になりますが「謡」の節には、「ツヨ吟」と「ヨワ吟」というものがあります。前者は雄々しく堂々と謡う感じで、武士とか皇帝とかのセリフに多いです。後者は繊細で優しく、女性のセリフに多いです。

謡本は「能」の台本ですから、地の文、シテのセリフ、ワキのセリフを一人で演じることとなります。「能」がお芝居なら、「謡」は朗読劇なのです。

### 3 「謡」の効用

昔から、「謡十徳」といわれる次のような言葉があります。

- ① 行かずして名所を知り
- ② 葉なくして鬱気を散ず
- ③ 旅に在りては知音（友人のこと）を得る
- ④ 習わずして歌道を識り
- ⑤ 望まずして高位に交じる
- ⑥ 詠せずして花月を望む
- ⑦ 老いずして故事を知り
- ⑧ 触れずして仏道を知り
- ⑨ 友無くして閉居を慰め
- ⑩ 恋せずして美人を懐（いだ）き

このように、謡を習うことは、めっちゃお得だよということが言われています。江戸時代の初期から昭和の始めころまではメジャーな趣味だったとのこと。金沢出身の私の父（昨年91歳で他界）も、宝生流の謡を兄弟で習っていたそうです。

普段使わない言葉を覚えますので脳が活性化しますし、声もよく通るようになるので、尋問も上手になったような気がします。正に弁護士向きの趣味かと（！？）。

### 4 「仕舞」の稽古

仕舞とは、能の舞の一部を取り出したもので、要するにダンスです。

日本舞踊のように派手なものではありませんが、きちんと型通りに舞えば、とてもカッコよく見えます。

これも一つ一つの型を先生に教えてもらいながら、真似をします。

手の動き、特に扇の使い方、足のステップなど、簡単なようで、なかなかうまくいきません。ある程度できるには、やはり数年かかります。

年に1～2回、能舞台での発表会があります。「謡」は台本を見ながらなので何とかできるのですが、仕舞は何も見ずに舞うしかなく、とんでもなく緊張します。どんな反対尋問でも、「仕舞の発表に比べれば・・・」と思うと気楽になるかもしれません。

体を動かすこと自体気持ちいいですし、かといって激しい運動ではないので、80代の方でも仕舞を舞っておられる方がいます。一生の趣味ですね。

### 5 師匠の探し方とお作法

例えば大槻能楽堂では、時々、体験レッスンとして回数を区切って集団で「謡」を習う企画があります。私も最初はそれに参加しました。

その後、私は、今の師匠（京都観世流の能楽師）のことはブログを見て知り、直接メールで連絡。まずは稽古の様子を見学させていただいてから、正式に習うことになりました。

一見、敷居が高そうですが、若い能楽師の中にはホームページやブログを開設したり、積極的にSNSを活用している人も多いです。そのルートを通じて連絡することで、気軽に見学を許していただければと思います。

他方で「和」の習い事ということで、独特なところも。たとえば普通の習い事だと、あらかじめ何曜日の何時からと時間が決まっていますスケジュールを立てやすいですね。

しかし、能楽師の先生は結構忙しいのです。能の舞台やそのリハーサル（申し合わせ）、地方や海外での公演のための出張など。その合間を縫って稽古があります。そのため、稽古の概ねの曜日は決まっていますが、変更になったり、時間が定まらないこともしばしば。

平日に稽古に行くには、会社員の方はなかなか大変かもしれません。ただ、土日や夜も対応してくださる場合も多いので、若い人もたくさん習っています。

あと能楽関係の人は世界が狭く、皆さん互いにつながっています。

一度、私は何の気なしに小鼓の体験レッスンに自分で申し込んで行ったことがありました。すると、あとで師匠から「鼓の〇〇先生のところに行かかったそうですね。さすが弁護士さんやね。普通やったら、紹介とかしてもらってから行くんですけど、自分で調べて行動しはるんですね。」とやんわり言われました。

すぐにはわからなかったんですが、もう一度同じような言葉を繰り返されたので、「あれ、私、叱られてる？」と気が付きました。色々なしきたりや作法があるようですので、迷ったら先輩や師匠には相談した方がよさそうです。

ただ、そういう失敗はそのときだけで、師匠は普段はとても優しいです。また、稽古や発表会では素人弟子同士で仲良く話す機会があります。それがきっかけで、稽古仲間の古美術商の方との顧問契約に至ったことも。

格調高く、一生の趣味にでき、なおかつ仕事にも生きる（かもしれない）お稽古として、「謡」「仕舞」は超おすすめです。

以上



## ファッション六法全書

～2023年2月13日 着こなし企画～

松浦 奨（74期）

昨今の新型コロナウイルスの流行に伴い外出の機会が減り、裁判の期日もWebが中心となり、スーツをバッチリ着こなす機会は激減したことと思いま

す。しかし、徐々に外に出る機会も増え、脱コロナに向けて世全体が動き始め、コロナ前の世の中に戻る日もそう遠くないことと思います。

そこで、第4回研修は、「コロナ禍にかまけてオシャレを忘れてしまった」「コロナが明けたことを機にオシャレをしてみたい」、そんな弁護士達の願いをかなえるべく、「ファッション六法全書」と題し、阪急阪神百貨店阪急メンズ大阪「スタイルメイキングクラブ」の西ヶ峰充宏さんを講師としてお招きし、ファッションについての研修を開催いたしました。



講義の内容は現在のトレンドのファッションから衣服の素材の特徴等、多岐に渡っており、オシャレにずぼらな私としては初耳の知識ばかりでした。また、広瀬元太郎先生と私松浦は、モデルとして、この日のために西ヶ峰さんを選んでいただいた服を実際に着させていただきました。着替えが終わり、会場へ戻ると、（私が記憶を美化していなければ）「おしゃれー！！」「似合ってるー！！」「男前ー！！」「ほれてまうやろー！！」等、人生で浴びたことのない大歓声をいただき、ニヤニヤが止まりませんでした。

↓大歓声にご満悦の私



広瀬先生も西ヶ峰さんのコーディネートで大変身。広瀬先生自身、内に秘めたファッション欲に目覚めてしまったようです。

↓ファッションに目覚めた広瀬先生



ファッションの話は奥が深く、まだまだ西ヶ峰さんから学びたいことが盛りだくさんです。次回以降も予定されていますので、今回参加されなかった先生も、次回は参加をどうぞご検討いただければと思います！！

西ヶ峰さん、今回も素晴らしい企画をどうもありがとうございました！！！！！！

## 3月7日政策シンポジウム報告

～「弁護団活動のススメ～こんなところが面白い！！」～

政策委員長 中島宏治（50期）

2023年3月7日、2回目の春秋会政策シンポジウムを開催しました。テーマは「弁護団活動のススメ～こんなところが面白い！！」と、弁護団活動に焦点を当てた企画で、若手から中堅までの弁護士による弁護団活動の良さを紹介してもらう企画となりました。

パネリストは、脇山美春弁護士（71期：HPVワクチン薬害訴訟弁護団）、和田信也弁護士（62期：生活保護基準引下げ違憲訴訟大阪弁護団）、増田尚弁護士（52期：家賃債務保証委託契約差止請求弁護団）の3名、コーディネーターは中島（50期：原発賠償関西訴訟弁護団・ノーモアミナマタ近畿訴訟弁護団）が務めました。

専門性を身に付ける機会は日常業務に忙殺されているとなかなかありません。弁護団では、ベテランの弁護士から、思いもよらなかったアイデアや法的手段を学べる場でもあります。忙しいのだけど、弁護士としての実力をつけながら人権活動を肌で体感できる貴重な機会であることに気づいた方も多いと思います。生活保護基準引下げ違憲訴訟や原発賠償関西訴訟など、弁護士会の委員会から派生した弁護団もあり、弁護団のルートは様々であることも実感できました。

また、パネリストの方々のお話を聞いていると、勉強になるという側面もさることながら、様々な世代の弁護士とのつながり、他の地域の弁護士とのつながりを感じることや、医師や研究者、議員など様々な業種の方々とのつながりができるという人脈形成面でのメリットというものも感じることができました。「弁護団活動は部活だ！」という発言も出てきましたが、楽しみながら力をつける場になっていく、それが弁護団の魅力なのだろうということを改めて感じました。

終了後のアンケートでは、「弁護団の種類、パネリストの期などのバランスもよく、先生方のお話もコンパクトにわかりやすくお話しいただけてとても聞きやすかったです。勉強になりました。」「弁護団活動の良き伝統は変わっていないことがわかった。」「内容はわかりやすく、弁護団活動の意義とやりがい具体的にわかりました。参加して良かったです。」などの感想が寄せられました。

とてもいい企画だったという感想が寄せられた反面、もっと若手の会員の方に参加して欲しかったという声も寄せられました。この続きは、また春秋会で企画していただけると嬉しいです。

以上



## 春秋会新人歓迎旅行報告

深谷 祐（75期）

3月18日～19日に春秋会新人歓迎旅行がありました。今年の旅行先は福岡です！

初日は7時45分新大阪駅に集合。早めの集合時間でしたが誰も乗り遅れることなく、順調なスタートを切りました。

博多駅到着後すぐにバスに乗り柳川へ。

まずは「御花」で柳川名物、鰻のせいろ蒸しを食べて腹ごしらえ。

このお店は、元々柳川藩主立花家の別邸だったとのことで、資料館なども併設されており、食後は館内を散策し、立派な庭園や柳川伝統の飾り「さげもん」の展示などを楽しみました。



その後は、船に乗って柳川城下町のお堀を川上り。下流から上流へ、船頭さんの陽気な歌声と巧みなオールさばきのもと、船はゆっくりと進んでいきました。風情のある景色と共に、穏やかなひと時を楽しむことが出来ました。



それから福岡市内に戻りホテルオークラにチェックイン。ひと息ついて、夕食会場「稚加栄」に。宴会は、新人の先生方による自己紹介や、道中のクイズの結果発表など、盛り沢山の内容でした。次年度幹事長岩本先生からの事務所の外のつながりを是非持って欲しいというコメントの通り、宴会は事務所の垣根を超えて大盛り上がりとなり、春秋会の懐の深さと温かさを感じる会になりました。

その後は二次会で中洲の屋台を巡るなど、思い思いに楽しいひと時を過ごしました。



←米田先生（75期）はお手拭きでジャグリングを披露！



←クイズの優勝は木村先生（39期）。40点中38点の高得点でした！



←2次会は中洲の屋台を散策！

2日目、まずは太宰府天満宮を観光。学問の神様、菅原道真公からご利益を授かり、心が満たされた後は、お腹を満たすために下関の唐戸市場に。

市場には新鮮な海鮮を使った様々な料理が並んでいて、どれにしようか目移りしました。私は「ふく汁」（山口では「ふぐ」のことを「ふく」と言うそうです。）とお寿司をチョイスし定食風に。お寿司はどれもネタが大きくて最高でした。また、昼食代を出していただいた先輩の先生方ありがとうございました。



←おみくじを引いて運試し！  
（太宰府天満宮）



←お寿司は最高でした！

(唐戸市場)

昼食後には福岡に戻って門司港に。煉瓦造りの建物が建ち並ぶ門司港レトロが有名ですが、太宰府天満宮から唐戸市場に向かう道中で予想以上の渋滞に巻き込まれたこともあり、滞在時間が30分と短くなってしまったため、皆さんお土産を求めて一目散にお土産ショップへ。私も無事に門司港名物焼きカレーを入手することが出来ました。



←門司港レトロ

その後は小倉から新幹線で帰路に。

以上、あっという間の1泊2日、楽しい福岡旅行でした。この旅行を通じて、同期の中での親睦も深まり、充実した2日間になりました。

旅行を企画してくださった先生方、ありがとうございました。



↑太宰府天満宮にて。



## ニュースレターの原稿大募集します

広報委員会といたしましては、このニュースレターを双方向的なものにしたいと思っており、皆様の原稿を大募集します。ぜひ、投稿ください。

- 1 今までのニュースレター・会報の記事に対するご意見
- 2 子育て体験談
- 3 変わった国に行った旅行記
- 4 ペットや趣味の紹介
- 5 感動した本、マンガ、ゲームの紹介

下記にお送りいただければ、ニュースレターに掲載させていただきます（もちろん、一定の審査はさせていただきますが…）

広報委員会委員長松尾洋輔

[y-matsuo@dojima.gr.jp](mailto:y-matsuo@dojima.gr.jp)